



## しのづか元 (壮士の会)

- 1.子ども、子育て支援について
- 2.健幸まちづくりについて

**問** コロナ禍の影響で、4月当初の0歳児、2歳児の保育定員の空き状況が、多くの認可保育園の運営に大きな負荷をかけている。具体的な解決の手立てはあるか。

**答** 利用定員の変更を含めて検討を進める。空き定員対応としては、市外在住の多摩市在勤在学の保護者の子どもを入所申請可能にするなどの対策をとっている。

**問** 学校内で展開する放課後子ども教室の充実は待機児童対策としても有効である。今後検討すべきではないか。

**答** 学童クラブの確保と放課後子ども教室による、子どもの放課後の居場所としてのバランスを考え、検討する。

**問** 7月末には健幸まちづくり政策監が任期を終えるが、今後の健幸まちづくりの推進体制について伺う。

**答** これまで行ってきた様々な事業やプロジェクトに加え、「多摩市版包括ケアシステムの構築」に向けた動きを本格的に進める。地域委員会構想の実現と合わせて、地域共生社会をめざす取組であることから、これらを一体的に推進するための組織体制を構築していく。



## 岩崎みなこ (ネット・社民の会)

ヤングケアラーの子どもへの支援とは  
～子どもの権利保障の視点から

**問** 中学生は、5.7%で17人に1人、つまりクラスに1人か2人のヤングケアラーがいることが、国の初の実態調査で明らかとなった。市はこの調査をどう受け止めたか。

**答** 調査結果は、多摩市も例外ではない。庁内含め、まだ認知度も低い。周知・啓発したい。

**問** 4年前、ヤングケアラーについて取り上げた。その際、教育委員会は「家族の幸せを考え助けようとする意欲と実践力の育成は大切だ」との答弁であった。これでは、当事者の子どもは、相談しにくかったと思うがいかがか。

**答** 中にはそういう子もいたと思う。国の結果を踏まえ、市内学校でも、家族のケアに負担を抱えている児童・生徒がいるとの認識のもと、ヤングケアラーの問題に取り組んでいく。

**問** 調査では中学生の1.6%は「学校に行きたいが行けない」と回答している。ヤングケアラーへの対策は不登校対策でもある。また、遅刻、授業中の居眠り、卒業後の進路変更など学校での発見が鍵だ。先生は必ず、支援メニューを持つ福祉の現場に繋いで欲しいがいかがか。

**答** 子どもの最善の利益を考え、意見を尊重し対応する。



## 本間としえ (公明党)

- 1.改正災害対策基本法の施行を受けて
- 2.誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化に向けて

**問** 支援が必要な高齢者や障がい者等の個別避難計画の作成が、市町村の努力義務になった。当事者と身近な福祉専門職・地域等と連携して個別避難計画の早急な作成が必要ではないか。

**答** 実施に向けて課題を整理して、福祉専門職や地域等の方々の協力が得られるような体制づくりを検討する。

**問** 永山マイナンバーカードセンターは手狭で限界なので、交付体制拡大と普及の加速化を要望するがいかがか。

**答** カードを希望する市民を長く待たせないことを最優先に、速く円滑に対応するための具体的な対応策の検討を進め、市民が身近に利便さを実感できる取組を進める。

**問** マイナポータルを活用し行政手続のオンライン化を積極的に進め、市民サービスの拡大を求めたいがいかがか。

**答** 先ず保育施設の利用申請も手続きできる様に進める。

**問** 高齢者にスマートフォンの扱いに慣れる機会を増やす等、デジタル格差解消対策を要望するがいかがか。

**答** 公民館・コミュニティセンター・社会福祉協議会・民間を含めた様々な主体による、デジタルデバйд対策事業を積極的に検討する。



## 遠藤ちひろ (新国会)

- 1.コロナワクチン接種はどうすればよかったのか。今後に向けた提案
- 2.市の街並みを「捨て看板」から守る

**問** 338名の市役所職員ワクチン接種報道は、多摩市のイメージを悪化させ、現場の医療従事者の士気を下げた。市長は接種人数や範囲をどうやって決めたのか。

**答** 集団接種会場で誘導や案内などにあたる職員を対象に接種した。報道により誤ったイメージが流れたことは残念。

**問** 先行接種を受ける基準を明確にして、市民に事前に関開しておくべきだった。市長の責任と意思決定のプロセスを明らかにしてほしいがいかがか。

**答** 東京都に市職員が医療従事者に準じる立場にあることを確認したが、ご指摘のように事前にお知らせすべきだった。

**問** ワクチンの電話予約が殺到したことを踏まえ、高齢者がスマホに慣れるための「スマホ教室」を開催してはどうか。私も協力するしPTAやおやじの会など、市民ボランティアも講師になってくれると思う。

**答** これまでも公民館などで開催してきたが、この機を生かしてさらに実施していきたい。

